

広報課からのお知らせ

テレビ テレビ和歌山 WTV

きのくに21 日曜 9:30・(再) 18:30
4月 1日 54年ぶりに公開 天王塚古墳
4月 8日 クマノザクラ(仮称)現地説明会
4月15日 和歌山県データ活用推進センター開所
4月22日 ロボカップジュニア・オープン開催
4月29日 知事と語る

県民チャンネル

月・火・木・金・土曜 21:55

マンスリー県政 ニュースワイド

毎月最終金曜 19:30~19:59

ラジオ 和歌山放送 WBS

県庁だより 毎日 11:40・(再) 18:00

※土・日曜は再放送がありません。

ラジオでお届け!県政最前線 火曜 15:40~16:00

放送内容・時間は都合で変更する場合があります。

きぎょうおうえん
わかやま企業応援ナビ

国や県などが実施する中小企業向けの産業施策を一発で検索できるWEBサイト「わかやま企業応援ナビ」を開設しています。ぜひご活用ください。

ポイント

- 最新情報に随時更新
- 150種類以上の施策をジャンル別に掲載
- 成功事例や経営者インタビュー動画の掲載など



問: 県庁商工観光労働総務課

わかやま企業応援ナビ



広告 県収入の一部とするため有料広告を掲載しています。県庁広報課 ☎073-441-2032

知事メッセージ

県民の皆様へ



羽生結弦選手の言葉

冬の平昌オリンピックは、数々の熱狂と感動を我々にもたらしてくれました。たくさんの方の名勝負、そしてその後の感涙を誘うようなアスリートの立派な行為や名文句がありました。何事でも一生懸命取り組んでいる人の行動や言葉には深く、重いものがあるなあと感じました。

その中の一つに羽生結弦選手の言葉がありました。羽生選手は、オリンピックのフィギュア種目で66年ぶりの連覇達成という快挙を成し遂げました。その恐ろしいまでに研ぎ澄まされた妙技は世界中の人に鳥肌が立つような感動を与えました。しかし、少なくともほとんどの日本人は、その羽生選手が昨年11月のグランプリシリーズNHK杯の直前練習で右足首の靭帯損傷という大怪我を負って、一時はオリンピックへの出場すら危ぶまれる状況にあったということを知っています。しかし、彼は懸命にリハビリに努め、何とか回復をオリンピックに間に合わせ、堂々と舞い、跳び、そして金メダルを獲得したのです。

その羽生選手がテレビでこう語っているのを聞きました。「正直に言えるのは、もし何もなくて、NHK杯で怪我をするまで順風満帆で何もなくうまくいっていたら、たぶん今回のオリンピックでは金メダルを獲れていなかった」。あの怪我があり、必死のリハビリをし、その間自分を見つめ直したからこそ、さらに大きくなって金メダルを獲れたのだと言っているのです。重い言葉だと思いました。

人生は失敗と困難の連続です。でもそれを経験しながら、その原因を考え、改めるべきは改め、懸命の努力をしてもっともっと自己を高めていく者に、栄冠が微笑むのだということを羽生選手の言葉はよく物語っていると思います。成功の反対は失敗ではなく、何もしないことだとも言われます。失敗をおそれて何もしない、これだけは県政ではしないようにしていきたいと思っています。

和歌山県知事 仁坂 吉伸